

# 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 8 年 4 月調査結果 - -

( 平成 1 8 年 4 月 2 8 日 )

調査期間：平成 1 8 年 4 月 1 7 日～ 2 1 日

調査対象：全国の 4 0 5 商工会議所が 2 5 7 7 業種組合などにヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 7 7 製造業 6 2 1 卸売業 2 3 3  
小売業 7 3 5 サービス業 6 1 1

調査項目：今月の売上・採算・業況などについての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題など

## D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

**業況DIは3カ月連続改善も、仕入コスト増、金利上昇懸念等不安材料あり**

4月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要が見られた平成9年3月調査（18.6）以来の高さとなった前月水準（23.5）よりマイナス幅が1.2ポイント縮小して22.3となり、3カ月連続でマイナス幅が縮小した。

産業別の業況DIは、建設、製造でマイナス幅が拡大したものの、他の3業種で縮小した。各業種から業況好調、売上増加、消費回復、先行き期待という声が寄せられている一方、依然として原油・素材価格の高騰、公共事業の縮小、受注価格の低下、日銀の量的緩和政策の解除による影響等による景況の停滞感、購買活動に対する消費者の慎重姿勢など消費の低迷、先行き不安を訴える声も聞かれる。

【建設業】では、「仕事の発注が出始めているので、今後の業況回復に期待したい」（管工事）との声がある一方、「見積依頼は多いが、同業者間の競争が激しいため低価格での受注を強いられており、採算は悪化したまま推移している」（建築工事）、「公共工事の発注がほとんどなく倒産などで企業数も大きく減っており、非常に厳しい状況に追い込まれている」（一般工事）との声も寄せられている。

【製造業】では、「大企業の生産活動の活発化を背景に下請企業への発注量も増加している」（その他の機械製造）との声がある一方、「燃料価格の高騰分を商品価格に転嫁できないのに加え、今後は量的緩和政策の解除による金利上昇が新たな懸念材料となっている」（茶・コーヒー製造）との声のほか、「売上は上昇傾向にあるが、原油価格高騰で製品の包装資材の仕入コストが上昇している」（パン・菓子製造）と、引き続き仕入コストの増加による影響を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「わずかではあるが、業況が改善する方向に転じたことを感じている」（農畜産水産物卸売）との声がある一方、「顧客が減少し売上也低迷するなど業況は依然として厳しいのに加え、仕入コスト上昇により利益率が低下している」（衣服・日用品卸売）、「米国产牛肉輸入停止の影響で、需要が膨らむ大型連休に供給不足が発生し、仕入コストが上昇する可能性がある」（各種商品卸売）との声が寄せられている。

【小売業】では、「衣料品や住居関連商品が好調で、食品も上向き傾向にある」（商店街）との声がある一方、「都市部や大企業の景気は上向いているものの、地方や中小企業の景況は依然として低迷したまま」（商店街）、「4月に入り消費者の購買活動に陰りが見え始めている」（百貨店）との声が寄せられている。

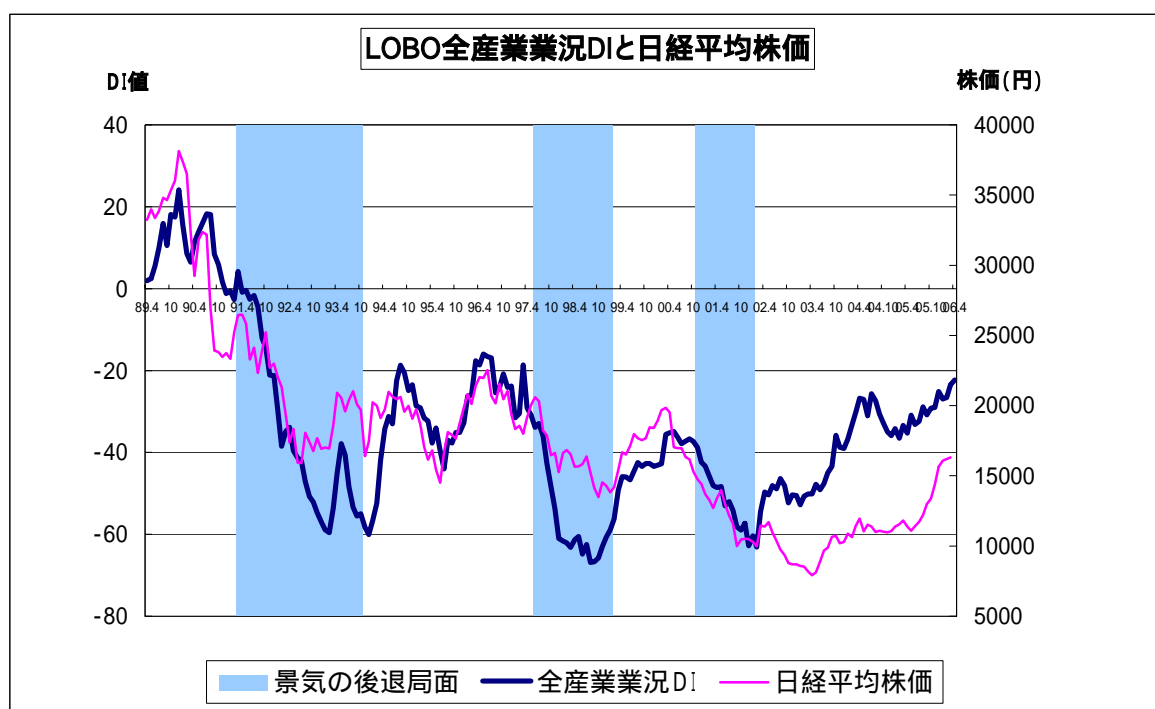
【サービス業】では、「業況が好転して交際費予算が増えたのか、法人顧客の利用が増えている」（食堂・レストラン）との声がある一方、「大手企業は業績が回復しても、一度下げた発注価格はそのままだので、中小企業はいまだに厳しい」（建物サービス）といったコメントのほか、「環境・安全対策へのコスト負担や競争激化に加え、原油価格高騰に伴う燃料価格上昇分を運賃に転嫁できない状況が続いており、経営環境は一層厳しさを増している」（運送業）との声も聞かれる。

売上面では、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が1.1ポイント縮小して17.6となり、2カ月連続で縮小した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は建設、製造で拡大したものの、他の3業種で縮小した。

採算面では、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が1.6ポイント縮小して23.9となり、2カ月連続で縮小した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は建設、製造で拡大したものの、他の3業種で縮小した。

向こう3カ月(5月～7月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が18.6と、昨年同時期の先行き見通し(29.6)に比べて改善している。

景気に関する声、当面する問題としては、業況好調、売上増加、消費回復、先行き期待という声が寄せられている一方、依然として原油・素材価格の高騰、公共事業の縮小、受注価格の低下、日銀の量的緩和政策解除の影響等による景況の停滞感、購買活動に対する消費者の慎重姿勢など消費の低迷、先行き不安を訴えるコメントも見られた。



【業況についての判断】

4月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 23.5 ）よりマイナス幅が1.2ポイント縮小して 22.3となり、3カ月連続でマイナス幅が縮小した。

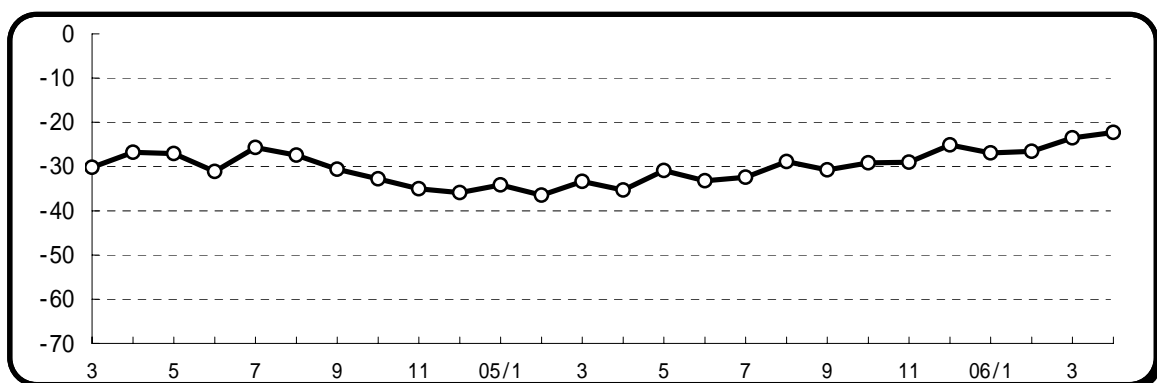
向こう3カ月（5月～7月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が 18.6と、昨年同時期の先行き見通し（ 29.6 ）に比べて改善している。

業況D I（前年同月比）の推移

	17年 11月	12月	18年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	29.0	25.1	26.9	26.6	23.5	22.3	18.6 ( 29.6)
建設	37.5	38.1	38.3	37.3	36.4	40.7	32.6 ( 43.5)
製造	19.5	14.9	12.2	12.7	10.7	11.5	12.9 ( 24.0)
卸売	32.5	31.9	38.4	35.7	33.3	25.5	18.2 ( 23.3)
小売	28.0	23.2	25.2	26.6	21.6	18.3	12.3 ( 31.1)
サービス	33.3	27.1	32.9	30.8	27.8	26.1	23.9 ( 27.2)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I  
（ ）内は昨年4月の先行き見通しD I < 以下同じ >

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

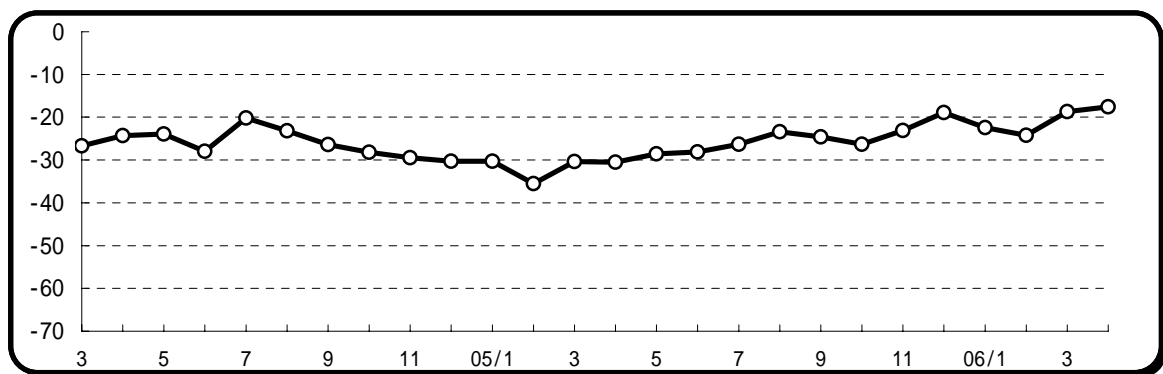
売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が1.1ポイント縮小して17.6となり、2カ月連続で縮小した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設、製造で拡大したものの、他の3業種で縮小した。

向こう3カ月(5月～7月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が12.6と、昨年同時期の先行き見通し(24.3)に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	17年 11月	12月	18年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	23.1	18.9	22.4	24.2	18.7	17.6	12.6 (24.3)
建設	29.2	30.8	34.6	35.7	33.3	35.8	32.3 (39.9)
製造	11.8	1.6	3.4	4.5	0.0	1.4	2.0 (13.0)
卸売	35.1	33.7	32.1	34.4	34.0	28.8	13.6 (22.1)
小売	25.2	17.7	24.7	29.3	20.6	18.8	8.1 (26.5)
サービス	24.5	25.2	28.3	27.6	21.3	17.4	16.4 (24.8)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

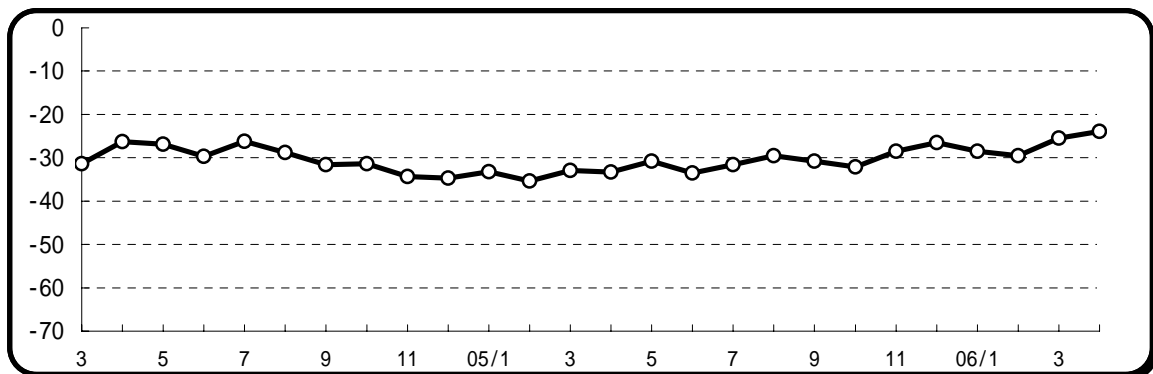
採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が1.6ポイント縮小して23.9となり、2カ月連続で縮小した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設、製造で拡大したものの、他の3業種で縮小した。

向こう3カ月(5月～7月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が20.7と、昨年同時期の先行き見通し(27.4)に比べて改善している。

採算D I (前年同月比) の推移

	17年 11月	12月	18年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	28.5	26.5	28.5	29.5	25.5	23.9	20.7 (27.4)
建設	41.9	43.1	45.4	43.7	41.0	41.1	37.3 (42.7)
製造	24.1	18.9	17.8	18.8	14.5	16.4	15.4 (24.0)
卸売	27.9	27.6	31.4	26.6	25.8	25.0	18.8 (20.9)
小売	22.5	22.8	23.3	28.8	23.2	17.4	13.3 (24.8)
サービス	31.6	27.9	34.0	33.6	30.0	28.5	25.4 (27.0)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	17年 11月	12月	18年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月
全産業	17.3	18.6	18.8	19.4	18.3	17.1	15.7 (19.4)
建設	27.6	31.3	31.3	32.8	31.6	30.0	28.6 (36.5)
製造	15.1	13.9	13.0	10.5	12.2	11.8	9.7 (15.9)
卸売	12.3	17.7	13.5	17.1	16.7	10.6	8.1 (11.1)
小売	14.8	15.1	15.4	18.0	14.5	12.7	13.9 (16.9)
サービス	17.5	19.1	22.8	22.8	21.6	21.6	18.7 (18.6)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は悪化超感が2カ月連続で弱まった。産業別にみると、サービスで悪化超感が横ばいだったものの、他の4業種では弱まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化超感が弱まる見通し。産業別にみると、サービスで悪化超感が若干強まったものの、他の4業種では弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	17年 11月	12月	18年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月
全産業	17.7	18.5	21.8	19.6	19.6	21.7	19.2 (17.7)
建設	30.6	24.0	29.1	25.7	26.3	27.8	26.8 (25.8)
製造	34.6	35.7	32.3	34.6	33.3	39.3	29.1 (32.1)
卸売	1.3	8.0	18.2	9.1	11.9	19.4	19.0 (14.1)
小売	5.1	6.5	10.7	7.9	7.4	8.0	8.9 (6.6)
サービス	12.4	15.2	21.0	18.3	18.9	16.2	16.1 (12.0)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は上昇超感が3カ月ぶりに強まった。産業別にみると、サービスで上昇超感が弱まる一方、他の4業種で強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇超感が強まる見通し。産業別にみると、製造で上昇超感が弱まったものの、他の4業種で強まる見通し。

従業員 D I ( 前年同月比 ) の推移

	17年 11月	12月	18年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	1.8	1.6	0.7	1.2	0.7	0.6	1.8 ( 6.1)
建設	16.9	14.7	17.9	17.6	16.5	16.3	16.6 ( 17.7)
製造	3.4	0.5	2.7	1.6	1.6	1.1	3.8 ( 7.4)
卸売	4.5	4.3	3.1	1.3	1.3	3.8	4.5 ( 9.9)
小売	6.5	1.5	7.4	3.9	6.4	7.6	5.9 (0.0)
サービス	1.2	3.2	3.8	0.3	2.0	4.2	1.6 ( 2.7)

D I = ( 不足の回答割合 ) - ( 過剰の回答割合 )

【前年同月比 D I】全産業合計は不足超感に転じた。産業別にみると、卸売で過剰超感が強まったものの、建設で過剰超感が弱まるとともに、製造で不足超感に転じ、小売、サービスで不足超感が強まった。

【先行き見通し D I】全産業合計は過剰超感が弱まる見通し。産業別にみると、建設、製造、卸売で過剰超感が弱まり、他の 2 業種で不足超感に転じる見通し。



## 【平成18年4月の景気キーワード】

### 回復への動き

各業種から、業況好調、売上増加、消費回復、先行き期待という声が寄せられている。「受注・採算ともに順調に推移しており、一部の企業が設備投資を実施するなど、徐々に明るい兆しがある」(松山・一般産業用機械)とのコメントに加え、「工作・建設機械を中心に受注量は増加傾向にあり、今後の課題として従業員確保を掲げる声が多い」(金沢・他金属製品製造)と従業員不足を訴えるコメントが寄せられている。また、「今年の大型連休は行楽地への人出が期待できるため、荷動きが活発化するのではないか」(沼田・食料・飲料卸売)、「4月に入り好転の兆しが見えており、高価格帯商品が売れるケースも出始めた」(相馬・百貨店)、「店舗改装効果で一時的に増加した来店者数が徐々に落ち着いてきた中でも、売上は好調を維持している」(水戸・百貨店)との声も寄せられている。さらに、「グループや家族連れのお客が増加しており、来月も大型連休のお客の入りを楽しんでいる」(赤穂・旅館)とのコメントも寄せられている。

### 悪化への懸念

一方で、各業種から、引き続き業況低迷と先行きへの懸念を訴える声も寄せられている。建設、製造からは、「前年と比較して受注がかなり減少し採算は悪化したまま推移しているとともに、仕入コストも上昇している」(福島・建築工事)、「受注量は確保できているが、受注価格が低く利益を上げるのに苦労している」(相生・船舶製造・修理)、「販売価格の低下や原油価格高騰による仕入コスト上昇に見舞われ、業況は悪化している」(川之江・紙製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「当社は苦境に喘ぐ建設業との取引が多く、先行きの見通しは暗い」(川崎・建築材料卸売)、「近隣の大型店に消費者が引き寄せられ、当商店街に報道で言われているような景気回復感はない」(美濃加茂・商店街)との声のほか、「都市部では景気が回復しているかもしれないが、地方ではまだその心配すら感じられない」(和歌山・旅館)と、地域間格差を訴えるコメントが寄せられている。

### 仕入・輸送コスト上昇

また、引き続き原油・素材価格の高騰等による仕入・輸送コストの上昇を訴えるコメントが寄せられている。建設、製造からは、「材料の仕入コストや配送費用の上昇が採算を圧迫しており、依然として厳しい状況が続いている」(静岡・一般工事)、「原紙の仕入価格が4月から上昇し、仕入価格高騰分を製品価格に転嫁できるかどうか大きな課題」(恵那・加工紙製造)、「運搬費や製品を加工する際の燃料費の高騰で仕入コストが上昇しているが、販売価格に転嫁できていない」(日田・建築材料卸売)との声が寄せられている。また、小売、サービスからも「価格上昇に苦しんでいる仕入業者から、砂糖の納入価格の値上げを通告された」(浦安・その他の小売)、「原油価格高騰により仕入コストの上昇傾向が続いているが、価格に転嫁できず状況は厳しい」(結城・洗濯)といった声や、「包装材やコーヒー豆の仕入価格が上昇しており、先行きの景況悪化が懸念される」(赤穂・喫茶店)といったコメントも寄せられている。

## 【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
18年	2月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇
	3月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇
	4月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・採算D Iは3カ月ぶり、売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「仕事の発注が出始めているので、今後の業況回復に期待したい」(管工事)との声がある一方、「見積依頼は多いが、同業者間の競争が激しいため低価格での受注を強いられており、採算は悪化したまま推移している」(建築工事)「元請会社からの低価格での発注に苦労している」(塗装工事)「公共工事の発注がほとんどなく倒産などで企業数も大きく減っており、非常に厳しい状況に追い込まれている」(一般工事)といった声が寄せられている。
製 造	業況・売上・採算D Iともに2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「依然として業況は好調を維持しており、先行きもこの好況が続くと判断して設備投資を行う動きもある」(通信機械器具製造)「大企業の生産活動活発化を背景に下請企業への発注量も増加している」(その他の機械製造)との声がある一方、「燃料価格の高騰分を商品価格に転嫁できないのに加え、今後は量的緩和政策の解除による金利上昇が新たな懸念材料となっている」(茶・コーヒー製造)、「受注は確保できているものの、受注価格が低いため採算は改善しておらず、先行きに不安を持っている」(船舶製造・修理)「売上は上昇傾向にあるが、原油価格高騰で製品の包装資材の仕入コストが上昇している」(パン・菓子製造)といった声が寄せられている。
卸 売	業況・採算D Iは3カ月連続、売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「わずかではあるが、業況が改善する方向に転じたことを感じている」(農畜産水産物卸売)との声がある一方、「顧客が減少し売上も低迷するなど業況は依然として厳しいのに加え、仕入コスト上昇により利益率が低下している」(衣服・日用品卸売)「米国産牛肉輸入停止の影響で、需要が膨らむ大型連休に供給不足が発生し、仕入コストが上昇する可能性がある」(各種商品卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況・売上・採算D Iともに2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「大都市での景気回復の波が地方にまで波及するのはこれからであり、先行きに期待している」(百貨店)「衣料品や住居関連商品が好調で、食品も上向き傾向にある」(商店街)との声がある一方、「都市部や大企業の景気は上向いているものの、地方や中小企業の景況は依然として低迷したまま」(商店街)「4月に入り消費者の購買活動に陰りが見え始めている」(百貨店)「来店者数は増加しているが、依然として客単価は低迷しており、消費回復を実感できるまでには至っていない」(商店街)といった声が寄せられている。
サービス	業況・採算・売上D Iともに3カ月連続でマイナス幅が縮小した。「業況が好転して交際費予算が増えたのか、法人顧客の利用が増えている」(食堂・レストラン)、「宿泊、飲食ともに個人による利用が増えており、予約も好調」(旅館)との声がある一方、「4月は学生による宴会利用が多かったが、来客者数は年々減少している傾向にある」(食堂・レストラン)「大手企業は業績が回復しても、一度下げた発注価格はそのままなので、中小企業はいまだに厳しい」(建物サービス)「環境・安全対策へのコスト負担や競争激化に加え、原油価格高騰に伴う燃料価格上昇分を運賃に転嫁できない状況が続いており、経営環境は一層厳しさを増している」(運送業)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、東北、北陸信越、東海、四国、九州でマイナス幅が拡大したが、他の4ブロックで縮小した。なお、全ブロック合計は3カ月連続でマイナス幅が縮小した。

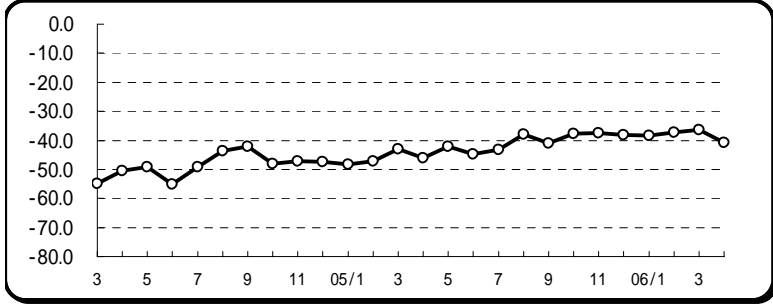
ブロック別の向こう3カ月（5月～7月）の業況の先行き見通しは、全てのブロックで昨年同時期と比べて縮小している。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

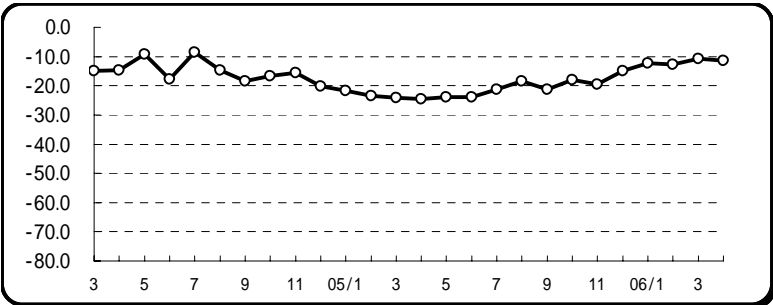
	17年 11月	12月	18年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全 国	29.0	25.1	26.9	26.6	23.5	22.3	18.6 ( 29.6)
北海道	30.0	34.9	25.9	35.4	33.6	29.3	24.1 ( 25.0)
東 北	28.9	26.4	34.2	25.2	27.9	29.6	26.1 ( 32.7)
北陸信越	23.7	19.0	33.3	28.0	22.7	23.7	17.9 ( 25.4)
関 東	26.0	21.9	19.2	21.0	19.3	15.7	13.9 ( 23.6)
東 海	29.5	17.9	14.9	17.2	14.3	15.0	11.4 ( 28.6)
近 畿	32.4	24.7	34.5	32.2	26.5	22.1	19.3 ( 33.7)
中 国	26.6	31.8	32.6	41.4	27.0	26.5	25.7 ( 43.8)
四 国	34.1	35.2	35.4	33.3	31.0	36.7	25.9 ( 33.3)
九 州	32.8	26.5	25.0	19.2	21.0	21.1	16.8 ( 30.4)

# 業況D I (前年同月比)の推移(全国)

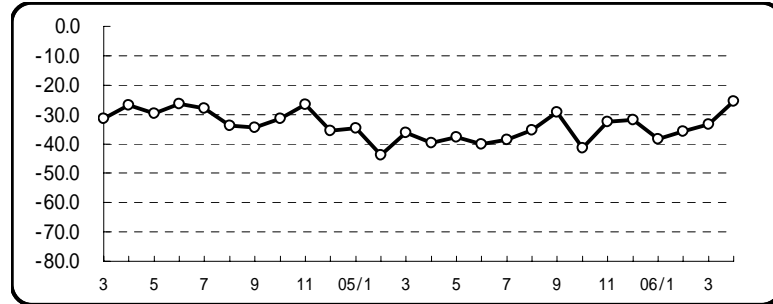
## 建設業



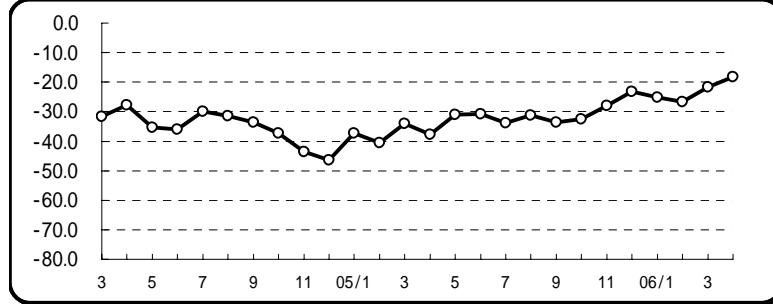
## 製造業



## 卸売業



## 小売業



## サービス業

